

国際協力人材育成の循環

～どのように組織連携で促すか～

登壇者

高知大学農林海洋科学部 准教授・増田 和也 氏

国際協力機構（JICA）青年海外協力隊事務局 次長・内山 貴之 氏

東京農業大学国際食料情報学部 教授・入江 憲治 氏

株式会社三祐コンサルタンツ海外事業本部 執行役員・荒川 英孝 氏

司会

高知大学農林海洋科学部 教授・宮崎 彰

2025年10月25日（土）13:10～16:30

会場

高知大学 朝倉キャンパス 共通教育棟 212号室

入場無料
予約不要

本シンポジウムでは、熱帯農業に貢献するグローバル人材育成の循環をテーマに、大学、国際協力機構（JICA）、農学知的支援ネットワーク、海外コンサルタントにおいて国際協力に関わる方々に、入口である海外派遣志願者の獲得から出口であるキャリア形成まで、現状、課題および先進事例をご講演いただき、人材育成の仕組みづくりや組織連携の在り方を議論します。

プログラム

- 13:10～13:20 開会あいさつ・趣旨説明
- 13:20～13:50 『高知大学におけるグローバル人材育成の取り組み』
高知大学農林海洋科学部 准教授・増田 和也 氏
- 13:50～14:20 『JICA海外協力隊事業を通じたグローバル人材の育成及び環流の取り組み』
国際協力機構（JICA）青年海外協力隊事務局 次長・内山 貴之 氏
- 14:20～14:50 『海外協力隊・連携派遣の実際とその意義』
東京農業大学国際食料情報学部 教授・入江 憲治 氏
- 15:00～15:30 『国際協力人材へのキャリアアップー窓口はどう開かれているかー』
株式会社三祐コンサルタンツ海外事業本部 執行役員・荒川 英孝 氏
- 15:40～16:30 総合討論（パネルディスカッション）

司会：高知大学農林海洋科学部 教授・宮崎 彰

*プログラムは予告なく変更されることがあります。

主催：第138回日本熱帯農業学会講演会運営委員会、共催：高知大学

	増田 和也 氏 高知大学 農林海洋科学部 准教授 環境人類学および地域研究を専門とし、日本・東南アジアの農山村において自然資源の利用や地域資源を活かした地域社会の再生に取り組む。日本・インドネシア6大学協働サービスラーニングプログラム（SUIJI-SLP）で両国を往復しながら、国内ではフィールドワークに基づいた課題探求や実習を指導。
	内山 貴之 氏 JICA青年海外協力隊事務局 次長 大学生で海外のボランティア団体のプログラムに参加し、南部アフリカのモザンビークで公衆衛生活動に参加。JICAに入構し、南部アフリカのマラウィ、東アフリカのウガンダに駐在。現在は青年海外協力隊事務局国内担当次長として、海外協力隊の募集広報、採用、そして海外協力隊事業を通じた地域や大学との連携の推進や、海外協力隊経験者の帰国後の国内外での社会還元の促進に取り組んでいる。
	入江 憲治 氏 東京農業大学 国際食料情報学部 教授 青年海外協力隊（ネパール）、JICA専門家（ミャンマー）の経歴。世界の食料・栄養問題に貢献することを目的に、植物遺伝資源の保全・利用を研究。「海外アブラナ属野菜遺伝資源の探索収集と特性解明」、「アフリカ地域の生活習慣や食文化に適応した新たな栄養評価法の開発」、「環境リスクに対するレジリエントな稲作の構築」など。JICAや農研機構と協働し、国際支援を担う人材を育成。
	荒川 英孝 氏 株式会社三祐コンサルタンツ 海外事業本部 執行役員 JICAをはじめとする国際協力事業で、アジア・アフリカを中心に10か国以上において農業・農村開発、灌漑・水資源管理、農業DX導入支援などに従事。プロジェクト形成から実施まで一貫して携わり、近年はJICA課題別研修の統括や小規模農民支援、施設栽培技術の普及を推進。さらに民間企業との連携による海外展開支援や社会課題解決にも力を注ぎ、実務と人材育成の両面から国際協力を牽引している。

シンポジウム交通案内

大学構内には車での入校はできません。公共交通機関をご利用ください。
高知大学（朝倉キャンパス）ホームページの交通アクセスをご利用ください。
(<https://www.kochi-u.ac.jp/outline/access/asakura/>)

交通アクセス

シンポジウム会場：高知大学 朝倉キャンパス 共通教育棟 212号室

- ・高知龍馬空港から空港連絡バスで約35分「はりまや橋」か、約40分「JR高知駅」下車→バス、路面電車またはJR土讃線へお乗り換えください。
- ・JR高知駅からJR土讃線下り15分「朝倉駅」下車徒歩3分バスで約25分「朝倉高知大学前」下車路面電車約30分「朝倉（高知大学前）」下車すぐ

